

## キンギョソウの魅力

場面に応じた高さが選べる

草丈の種類	特徴
高性種	主に切り花向きです。出荷期は年末から5月くらいまで。2~3回切れます
ニーハイタイプ	膝丈くらいの高さで主軸が固く鉢植え向きです。花壇にも使われます
<small>わいせい</small> 矮性種	花壇向け品種で20~40cmくらいの高さになります
<small>はいせい</small> 這性種	クレーピングタイプとも呼ばれ分枝が多く花がたくさん咲きます

### 育てやすさ

秋まきですが8月の暑い時期にも種まきは可能です。9月下旬に種をまくと、1か月後に植え付け、1回摘芯を行い、11月下旬には花芽が見えて、お正月ごろ開花するのでおすすめ。水のあげ過ぎは育ちが悪くなるので、さっとかける水やりを繰り返しましょう。

### 多彩な花色

キンギョソウは青系の色はありませんが、そのほかの色はすべて網羅していると言ってもよいでしょう。同じオオバコ科のリナリア(姫金魚草)にはラベンダー色があるので、近い将来キンギョソウにもブルー系ができるかもしれませんね。

## 人気のナチュラルガーデン

※ナチュラルガーデンとは、自然のままの庭づくり。庭の環境に合わせた植物を取り入れて、なるべく手を加えず自然な状態にすることです。



「ブロンズドラゴン」という背の高い品種です。高性系で銅葉、薄ピンクの花色で立体的な花壇になっています。

カラーリーフ(ヒューケラ)や黒のカラーとの対比を際立たせています。



オレンジ(アプリコット)色のペンステモン型の花型、ニーハイタイプのキンギョソウ「トゥイニー」です。黄色の品種と混ぜて使ってスペースを埋めているのが分かります。この花壇では、背の高い部分をカンパニュラやデルフィニューム、アリウム・ギガンジュームに任せて、低い部分で活躍しています。

キンギョソウは、デザインや色によって使い分けができ、パンジーに匹敵する開花期の長さから、秋から初夏まで楽しめる品種です。浜名湖花博2024でも多くの花壇を彩りました。今回はキンギョソウの魅力をご紹介します。



今月は  
キンギョソウ

## 基本情報と主な品種

学名: Antirrhinum majus  
和名: キンギョソウ  
別名: アンテリナム スナップドラゴン  
分類: オオバコ科アンテリナム属 (キンギョソウ属)  
地中海原産 多年草(夏を越えられないので一年草扱い)  
開花期: 周年開花しますが、園芸店に並ぶのは10月から4月頃まで

### キンギョソウの切り戻し

花穂を作り、下から順々に咲いていくので、一番上の花まで咲くと下の方は散り始めます。冬になると開花期間が長くなりますが、逆に花芽を作りづらくなる時期ですので、咲き終わった花は思い切って切り戻しする(花穂を形成した枝を葉のある状態の半分くらいに切る)のがおすすめ。春にまた多くの花芽をつけた枝を伸ばしてくれます。



**キャンディー トップス**  
わいせい 矮性種  
主軸が固いのが特徴



**フローラルシャワー**  
わいせい 矮性種  
花壇、鉢植え向き



**ソネット**  
ニーハイタイプ  
扱いやすく花壇、寄せ植え向き